第 10 回極限環境微生物学会　創立 10 周年記念年会　報告

10 月 28、29 日の両日にわたって開催された、当学会年会には、多くの会員・非会員の皆様にご参集いただき、大変盛況な中で開催することができました。参加者合計は **294** 名（内訳を以下の表に示す）となり、過去 10 回開催してきた年会で最高の参加者人数となりました。また総会にて平成 22 年度からの役員体制が承認され、学会名称も来年度から微の字が抜けて**「極限環境生物学会」**とすることが了承されました。会員各位のご協力に事務局一同感謝申し上げます。

	事前申し込み人数	当日申し込み人数	合計
一般	94 （会員 75、非会員 19）	20 （会員 13、非会員 7）	114 （会員 88、非会員 26）
学生	95 （会員 9、非会員 86）	85 （会員 0、非会員 85）	180 （会員 9、非会員 171）
総計	189 （会員 84、非会員 105）	105 （会員 13、非会員 92）	**294** **（会員 97、非会員 197）**

スペシャルセッション

明治大学スペシャルセッションとして、「環境生物学の新たな展開」と題し、別府輝彦先生（日本大学）、浅沼成人先生（明治大学）、糸山享先生（明治大学）にご講演をいただいた。別府先生からは、「炭酸ガスと光：微生物の環境を見直す」と題し、微生物共生の研究から環境と微生物の相互作用に関するご自身のご研究を 1 時間にわたりご紹介いただいた（右写真）。

学会奨励賞受賞者（敬称略）

・ 野尻秀昭、東京大学・生物生産工学研究センター

➢ 環境細菌の難分解性環境汚染物質分解能発現機構の解明

・ 黄川田隆洋、農業生物資源研究所・乾燥耐性研究ユニット

➢ ネムリユスリカの極限乾燥耐性を支える分子基盤の解明

大島選考委員長を囲んで。左、黄川田博士。右、野尻博士。おめでとうございます。今後の更なるご活躍を期待しております。

ポスター賞受賞者

賞品の刻印入りワイン（左）と受賞者。左から（敬称略）、

P-34 守野正人（東洋大）好アルカリ性細菌 *Bacillus pseudofirmus* OF4 株がもつマルチサブユニット型 Na+/H+ アンチポーターMrp の網羅的な機能アミノ酸残基

の同定

P-33 高橋優嘉（東洋大）枯草菌が持つ 2 種類のべん毛モーター固定子 MotAB、MotPS の回転機構に重要なアミノ酸残基の同定と解析

P-6 向井彩子（九州大）耐熱性 ATP 再生系の DNA 組換え反応への応用

P-25 花岡賀子（北海道大・産総研）過酸化水素耐性細菌 *Exiguobacterium oxidotorerans* T-2-2T 株の細胞外カタラーゼ産生に関する研究

P-20 佐藤勝也（原子力機構）放射線抵抗性細菌における新規遺伝子操作系の開発

P-45 川本純（京都大）低温誘導性ポーリンのフォールディングにおけるエイコサペンタエン酸含有リン脂質の生理的役割

スペシャルイベント

10 周年記念年会を記念して懇親会にてスペシャルな企画がありました。

・ 掘越会長のお誕生祝い。

懇親会の日、10 月 28 日は掘越会長の？？回目のお誕生日でもありました。そこでサプライズ企画として、幹事会の紅 1 点、古園幹事より掘越会長に花束と記念品が贈呈されました。

・ JSE 事務局を 10 年間支え続けてくれた兼次さんへの感謝。

もう一つのサプライズ企画として、事務局の兼次さんに、掘越会長から感謝の花束が贈呈されました。裏方あっての 10 年間でした。兼次さん、ありがとうございます。次の 10 年もよろしくお願いいたします。

リバティタワーから望む東京の夜景（上）と参加者の皆さん（下）。

最後に、本年会を会場側として盛り上げていただいた明治大学の浜本先生をはじめとする関係者一同に感謝申し上げます。ありがとうございました。

極限環境微生物学会事務局一同